

オーナー様 / 「ツインコート菊名」「セントラルコート菊名」
植村 允勝 様

私が環境建築設計と出会ったのは1980年代だった。当時、高低差と斜面がある敷地の開発計画で私は行き詰まっていた。斜面保護のためには擁壁工事が必要だが、これが収支を悪くする。そんなときに、地形をたくみに利用した、斬新でユニークなプランを提案していただいた。更に、資金計画から近隣にお住まいの方々への対応まで、事業全般にお世話になった。そのときに建てたマンションは、30年にも及ぶ年数を経た現在も、高い評価を得ており、部屋が空くのを待ってご入居くださる方もおいでになる状況になっている。

私どもがマンションを建てたころから、それまでの右肩上がりの世の中ではなくなった。地価と賃料の下落、多数の空室の発生という、マンション経営にとって冬の世界に突入した。

このような情勢の中で、リノベーションを進めて新築当時のグレードを維持することは至難なことである。私どもが、この至難なことを実行できているのは、環境建築設計と六耀の緊密な連携によるたまものである。時代の移り変わりや住まい方の変化のなかで、私どもがマンションのグレードを守ることができていることを誇りに思っている。



環境建築設計 副所長
片桐 由弘

設計に携わるにあたりいつも心掛けているのは、オーナー様が建物完成後、末長く建物に愛着を持って住み続けていただける、または所有し続けていただけるものを創り出したいということです。

また建物完成後の細かいメンテナンスや大規模修繕工事等にも直接携わらせていただき、設計者の目で建物の細部までくまなく確認することで、オーナー様には永続的に安全・安心をご提供させていただき、建物を介して次世代までのお付き合いをいただいています。

オーナー様 / 「サンクリバージュ野方学生館・新館」「ウィンクルム野方」
岸 宏昭 様

貴方がこれからつくりたい建物が「世間並みでない、十二分に良い建物を!」、「15年・20年先も、新築に負けない建物を!」というご希望でしたら、優秀な設計事務所を厳選の上、設計・監理を依頼すべきです。そして、「十二分な設計料」を提供して、建築士の持てる力を存分に発揮してもらってください。良い建物、競争力のある建物であればある程、建築士が腕を振るおうとする多方面に渡る課題・難問、そして、設計ポイントは数限りありません。竣工後の「管理・運営」への協力も必要です。設計料の多少の増減など、建物全体の長期累計・総事業費に比べれば微々たるものです。

「渾身の力を込めた、魂の込められた建物」は何十年経っても、ご入居者に「住みやすさ・快適さ」を実感していただける・・・と私は確信しています。

「これ以上ないものができた!」と建築士が自信を持って言える建物をお望みでしたら、是非ともそうされることを強くお勧めいたします。

環境建築設計 設計室長
井上 知樹

多数の設計事務所で実務を経験して、共同住宅だけではなく、店舗、教会、老人ホーム等様々な建物を設計して参りました。設計する時に心掛けていることは、あまり流行りを追わず、飽きのこないデザインを考えること、経年変化によって汚くなるのではなく、味が出る素材を用いることです。

単にオーナー様のご要望に応えるだけではなく、コミュニケーションを取る中で、まだ気が付いていらっしやらない建物の本質に少しでも近付けたいと思います。

オーナー様 / 「アザレK.2」
加藤 妃生子 様・達子 様

アザレK.2のエントランスには広い庭があり、最寄りの武蔵新城駅から1分足らずの立地にありながら、周囲の雑踏からは信じられない解放感に満たされています。

夕暮れ時には、庭の植栽や重厚なロートアイアンのパーテーションやレンガ塀、ベンチなどが落ち着いた灯りで照らされ、ビルを出入りする人々を暖かく迎えてくれます。

アザレK.2は私達の要望でもあった欧州風のデザインが散りばめられた美しいビルです。

セキュリティも万全で各部屋も広く心地よいので入居者の皆様にも満足していただいております。

建築は人の幸せを左右します。私達は環境建築設計さんと六耀さんに出会えて幸せに思います。



「サンクリバージュ野方学生館 竣工 20 周年を祝う会」にて岸様と宮坂代表(左)

六耀 管理部部長
櫻本 隆二

不動産の本当の価値は本当に安心できる生活を守ること、本当に必要な生活を創ることだと思っております。

これからの不動産事業では、建物ありきの発想で管理を進めるのではなく、その地域の特性を考えて暮らしを創造する必要があります。六耀は関連会社の環境建築設計と連携を図りながら、不動産管理の視点から建物を創ることができる会社です。

私たちのビジョンは不動産における新しい価値を見出し創り上げることと考えております。